

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) : <http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html>)

マイライブラリー:0572

(注)本稿は 2023 年 2 月 7 日から 12 日まで 3 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.2.14

前田 高行

IMF 世界経済見通し: 来年にかけて緩やかに成長する世界経済

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook Update, January 2023)」を発表した。このレポートでは全世界、EU、ASEAN などの主要経済圏及び日米中印など主な国々の 2020 年(実績)から 2024 年(予測)まで 4 年間の GDP 成長率が示されている。

本稿では今年(2023 年)及び来年(2024 年)の世界、主要経済圏、主要国の成長率を比較し、また前回 2022 年 10 月の経済見通しに対して GDP 成長率がどのように見直されたかを検討する。さらに昨年 2022 年 1 月から今回まで 5 回の見通しで、2023 年の成長率がどのように見直されてきたかを精査する。

* WEO レポート:

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2023/01/31/world-economic-outlook-update-january-2023>

(同日本語版)

<https://www.imf.org/ja/Publications/WEO/Issues/2023/01/31/world-economic-outlook-update-january-2023>

(今年の世界の成長率 2.9%、多くの国で前回見通しを上方修正！)

1. 2023 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

今回 1 月見通しでは今年の世界の成長率は 2.9%とされており、前回 10 月の 2.7%から 0.2%上方修正されている。これはコロナ禍が終息傾向にあり中国の経済活動が復活するとの見通しによるものと考えられる。但しウクライナ紛争の先行きが見えず、またエネルギー価格の上昇など経済を下押しする要因もあり必ずしも楽観視できない要因もある。

経済圏で見ると EU 圏の 2023 年の成長率は 0.7%であり、10 月の数値と変わらない。これに対して ASEAN5 カ国は 4.9%から 4.3%に下方修正され、中東・中央アジア諸国も 3.6%から 3.2%に引き下げられている。EU 圏はウクライナ紛争における対ロシア経済制裁及びエネルギー価格の高騰が西欧諸国にブーメラン効果を及ぼしており、昨年後半から経済成長が停滞している。また石油・天然ガスの産出国が多い中東・中央アジア諸国は、エネルギー価格高騰の恩恵を受け世界平均を上回る成長率であるが、こちらもエネルギー価格高騰が世界の経済成長を押し下げるブーメラ

ン効果に見舞われ成長率が鈍化すると見込まれている。

国別では今年の成長率は米国 2.9%、日本 1.8%、ドイツ 0.1%、英国▲0.6%、中国 5.2%、インド 6.1%、ロシア 0.3%である。中国はつい最近まで桁の高い成長率を続けてきたものの、コロナ禍により成長率が急減速している。しかしそれでも世界平均の 2.9%を上回る成長率が見込まれている。これに対してヨーロッパ諸国は上記の通り EU 圏の成長率が 1%を下回り、ドイツは 0.1%とわずかな成長にとどまり、また英国はマイナス成長と見込まれるなどヨーロッパ諸国の不振が際立っている。

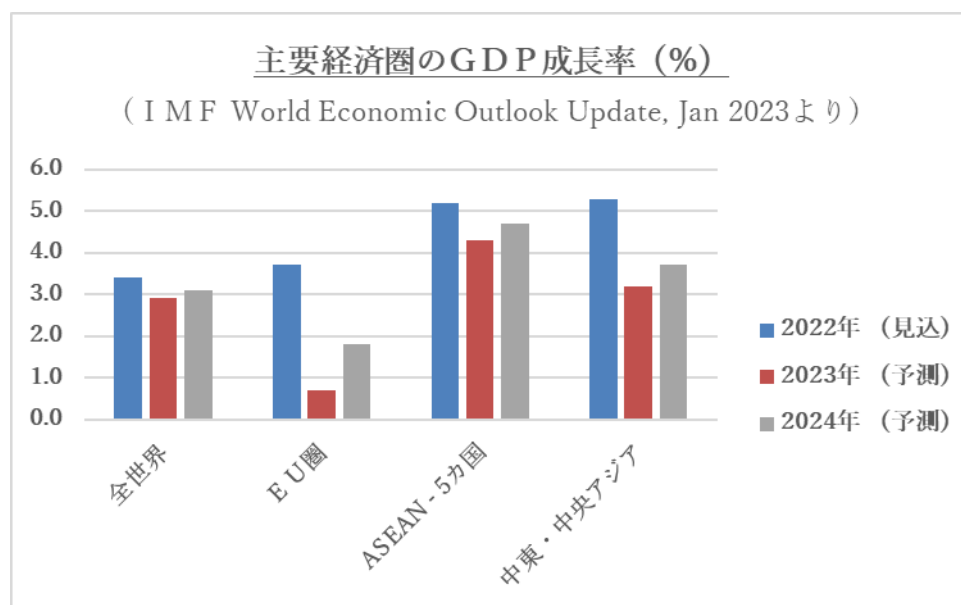
一方アジアでは中国及びインドが 5%を超える成長率が見込まれ、特にインドは世界最高水準の高度成長を達成しそうである。サウジアラビアは世界平均に近い成長が見込まれるが、これに対してロシアは 0.3%の低成長にとどまっている。同国はサウジアラビアに並ぶ石油・天然ガスの生産国であるが、ウクライナ紛争の長期化による国内経済の悪化及び欧米諸国による経済制裁が大きく響くものと考えられる。

2. 2022 年～2024 年の GDP 成長率

主要な経済圏と国家の昨年(実績見込み)、今年(予測)及び来年(予測)の GDP 成長率の推移を見ると以下の通りである。

(際立って低い今年と来年の EU 成長率！)

2-1 主要経済圏



全世界の 3 年間の成長率は 3.4%(2022 年)→2.9%(2023 年)→3.1%(2024 年)であり、3%前後で推移する見通しである。昨年及び今年にはコロナ禍が回復傾向に向かった一方、ウクライナ危機が長引きプラスとマイナスの要因が景気回復を停滞させたが、来年に向けては緩やかに成長すると見込まれる。

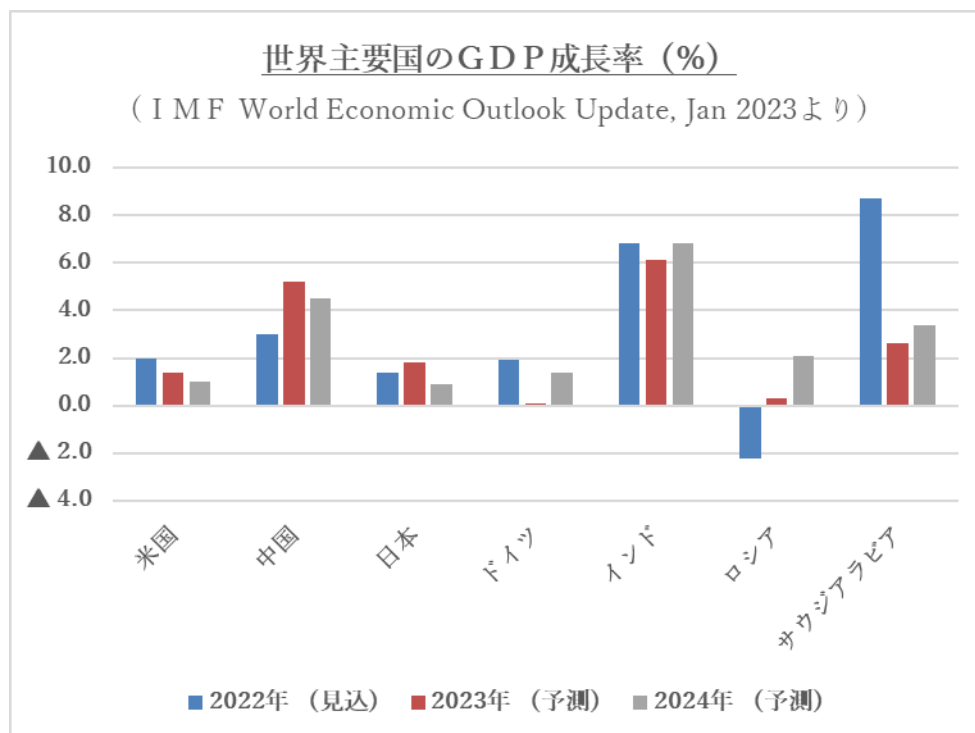
ウクライナ危機の影響を最も大きく受けるのは EU 圏である。3 年間の成長率は 3.7%→0.7%→

1.8%であり、今年は前後 3 年間の中で成長率は大きく落ち込んでおり、他の経済圏と比べても際立って低い。ASEAN5 カ国の成長率は 5.2%→4.3%→4.7%であり、世界平均を上回る成長率を維持する見通しである。

中東及び中央アジアは産油・ガス国が多く、エネルギー価格の高騰により高い成長率を示し、3年間の成長率の推移は 5.3%→3.2%→3.7%である。昨年はエネルギー価格高騰の恩恵が大きかったが、今年及び来年は世界平均を少し上回る程度の成長率で推移する見通しである。

(高い成長率を維持するインド！)

2-2 主要国



米国の昨年の成長率は 2.0%であったが、今年(1.4%)、来年(1.0%)と連続して成長が鈍化する。日本の成長率は 1.4%→1.8%→0.9%と 1%前後を維持するとみられている。中国は 3.0%→5.2%→4.5%であり、昨年から今年にかけて経済成長を回復するものの、その勢いは持続せず来年は 5%以下にとどまる見込みである。ごく最近まで二桁台の成長率を誇っていた頃に比べる中国の成長率は伸び悩んでいる。これに対してインドの成長率は 6.8%→6.1%→6.8%であり、世界平均を大きく上回る 6%台の高い成長を維持する見込みである。

中国、インドなどと共に新興経済国 BRICS の一翼を担ってきたロシアの成長率は対照的な様相を呈している。昨年(2022 年)は一昨年に引き続くマイナス成長(▲2.2%)であり、今年(0.3%)、来年(2.1%)はプラスながらも低い成長率にとどまると予測されている。ウクライナ紛争は未だ終息の見通しが立っておらず、ロシアの成長率が昨年同様マイナスに陥る可能性は否定できない。

産油国サウジアラビアの 3 カ年の成長率は 8.7%→2.6%→3.4%であり、昨年は原油価格高騰の恩恵を受けたが、今年及び来年は世界景気の回復が遅れる一方インフレによる輸入価格の高騰

のため、昨年のような高い成長率は期待できないようである。

3. 2023 年 GDP 成長率見直しの推移

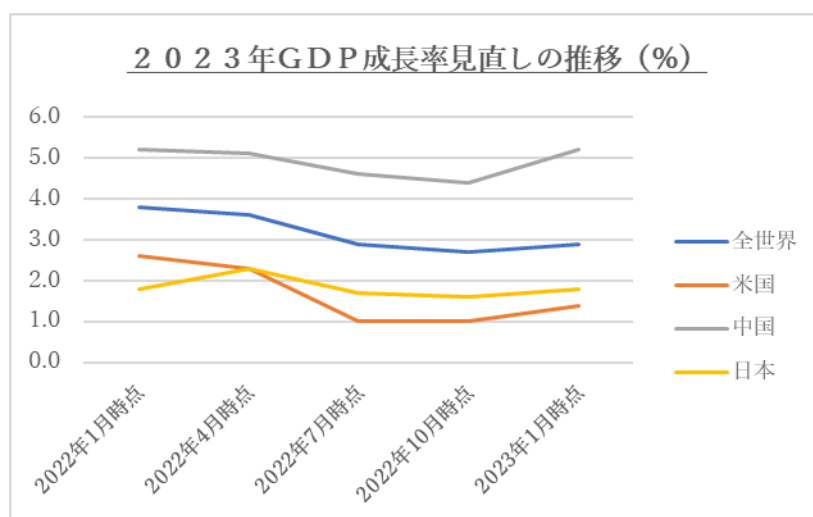
IMF の世界経済見通しは毎年 4 月、10 月に全世界 200 弱の国について成長率の見直しが行われ、さらに 1 月及び 7 月には主要な国と経済圏の成長率が発表されている。主要な国と経済圏については 3 カ月ごとに検証されていることになる。

最近の特徴はコロナ禍、ウクライナ紛争、エネルギー価格の高騰など国際経済を取り巻く環境が不透明感を増していることである。このため IMF の成長率見通しも 3 カ月ごとに大きく変動するという特徴が見られる。

ここでは直近 5 回(2022 年 1 月、4 月、7 月、10 月及び今回 2023 年 1 月)の成長率見直しの推移を比較する。

(昨年連続して引き下げられた世界と米中の成長率！)

3-1 全世界及び日本、米国、中国



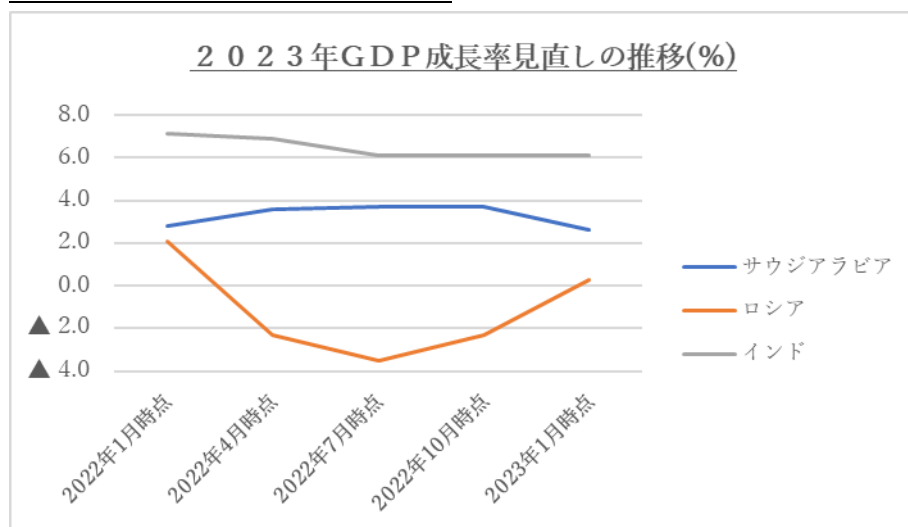
直近 5 回の IMF 経済見通しにおける 2023 年の世界の GDP 成長率は 2022 年 1 月見直しでは 3.8%であったが、その後 4 月は 3.6%、7 月 2.9%、10 月 2.7%、今回 2.9%に修正されている。4 月から 7 月にかけてそれまでの 3%台から 2%台に下方修正され現在に至っている。

米国は 2.6%→2.3%→1.0%→1.0%→1.4%である。2022 年 7 月に大きく下方修正されており、今年 1 月の予測値でも 1%台前半にとどまっている。中国の場合は、5.2%→5.1%→4.6%→4.4%→5.2%であり、昨年 7 月に引き下げられたのち、今回は 1 年前の予測値と同じ成長率に見直されている。

日本の 2023 年成長率の過去 1 年間の見直しは 1.8%→3.3%→1.7%→1.6%→1.8%と見直されている。昨年 4 月には成長率が一旦 3%台に上方修正されたが、その後は再び 1%台後半の成長率に戻っている。エネルギー価格の急騰は日本経済のアキレス腱であり、このことが早期の成長率回復の障害になっているようである。

(インドは 6%の高度成長、OPEC+の盟主に極端な明暗！)

3-1 ロシアとサウジアラビアとインド



サウジアラビアとロシアは米国と並ぶ三大産油国であり、両国は OPEC+(プラス)の盟主として最近の石油価格の高値安定を主導している。昨年 1 月時点では 2023 年の成長率見直しはサウジアラビア 2.8%、ロシア 2.1%であり拮抗していたが、2 月のウクライナ紛争発により両国は明暗が分かれた。

紛争により石油価格が急騰したことは輸出国のサウジアラビアに大きな追い風となった一方、紛争当事者のロシアは経済制裁の影響を受け経済に深刻な懸念が生まれた。7 月の成長率予測ではサウジアラビアの成長率が 3.6%に上方修正されたのに対し、ロシアは一転して▲2.3%のマイナス成長に転落している。その後紛争の長期化の兆しが見られる中で 2023 年のロシアの成長率はマイナスが続くと予測されていたが、今回(1 月)は今年の成長率はプラスになると予測されている。ただし IMF が次回 4 月の見直しでプラス成長を維持するか否かは極めて不透明であると言えよう。

アジアの経済大国であるインドの 2023 年の GDP 成長率予測は、7.1%(2022 年 1 月時点)→6.9%(4 月)→6.1%(7 月)→6.1%(10 月)→6.1%(本年 1 月時点)である。昨年 7 月に下方修正され今回に至っているが、それでもインドの今年の成長率は世界平均を大きく上回る見通しである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

MENAと世界主要国のGDP実質成長率(2023-24年)

国名	2023年1月見通し(今回)			2022年10月見通し (前回)		前回/今回比較	
	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	増減	2023年成長 率(%)	2024年 成長率 (%)	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)
全世界	2.9	3.1	0.2	2.7	3.2	0.2	▲ 0.1
米国	1.4	1.0	▲ 0.4	1.0	1.2	0.4	▲ 0.2
EU圏	0.7	1.8	1.1	0.7	2.1	0.0	▲ 0.3
ドイツ	0.1	1.4	1.3	▲ 0.3	1.5	0.4	▲ 0.1
日本	1.8	0.9	▲ 0.9	1.6	1.3	0.2	▲ 0.4
英国	▲ 0.6	0.9	1.5	0.3	0.6	▲ 0.9	0.3
中国	5.2	4.5	▲ 0.7	4.4	4.5	0.8	0.0
インド	6.1	6.8	0.7	6.1	6.8	0.0	0.0
ASEAN-5 ヶ国	4.3	4.7	0.4	4.9	5.3	▲ 0.6	▲ 0.6
ロシア	0.3	2.1	1.8	▲ 2.3	1.5	2.6	0.6
中東・中央アジア諸国	3.2	3.7	0.5	3.6	3.5	▲ 0.4	0.2
サウジアラビア	2.6	3.4	0.8	3.7	2.9	▲ 1.1	0.5